

法人会ニエス 2006 1 江東 ひがし



<http://www.koto-higashi-h.or.jp/>



浮世絵

東都流行三十六会席
今戸八重桐

歌川国芳画
大判錦絵

歌川国芳画（寛永9年〜文久元年）
（1797〜1861）国芳は国貞（三代豊国）・広重と共に江戸末期のベスト3に評価された人気絵師。覇気と奇想あふれる武者絵、小粋な美人、ユーモアとウィットに遊ぶ版画等を得意とし

た。江戸の歌川派絵師のことを書いた伝記「浮世絵師歌川列伝」（飯島虚心）では、「国芳は活発にして、快気あり」、其の日に得る画料は、其の日の内に消費してしまう江戸っ子の気性を持つていた。

『二期一会』



江東東税務署長

尾崎敏紀

新年明けまして
おめでとございます。

江東東法人会の会員の皆様には、ご家族そろって清々しい年明けとともに、よいお正月を迎えられたこととお慶び申し上げます。

昨年は、法人会の会員の皆様には私ども税務行政に於ける様々な施策や行事等に多大な御支援と御協力を賜り、おかげ様で円滑な署務運営が出来ました事に対しまして心より感謝申し上げます。



特に平成15・16年度の税制改正に伴い
(消費税の
免税点の引
下げ・公的
年金等控除

の改正・老年者控除の廃止等)、平成18年には多数の申告者数の増加が見込まれております。

すでに法人会の会員の皆様には、国税電子申告・納税システム(e-TAX)の普及や、自書申告の定着に向けた広報等、法人会活動を通じて御支援を賜っており、重ねてお礼申し上げます。税務行政に携わる者として、納税者の皆様にはなお一層の信頼を得られるよう、世の中の激しい変化を鋭敏に捉えたメリハリのある透明性の高い税務行政に全力をあげて取り組んで参りますので、会員の皆様には本年も引き続き御支援を賜りますようお願い申し上げます。

二期一会

早、お正月!! 早いもので私が当署に着任して半年が過ぎました。この間、法人会会員の皆様をはじめ多くの人達とお会いすることが出来まし

た。東京の下町と言う情緒溢れる人情味豊かな人々とのふれあい、正に下町の温かさが肌感じられる街であります。

私は常に出会いを大切にしておりますが、入署以来40余年税務職員として異動も多

事も幸いしてか、多くの人々との出会いがありました。十人十色と申しますが、千人千

色、それぞれの人のふれあいの中で人間社会の良し悪し

も左右されるのではないでしょう

うか。人は得てして我田引水ではありませんが、周囲の事を考えずに自分の都合で物事を運ぶ動物です。しかし少しでも相手の立場で考え行動すればと思うと、醜い争いも減るのではないのでしょうか。

又、「出会いは別れの…」と申しますが、人の出会いは人生に於ける貴重な財産の蓄積であります。この蓄積された

人と人との出会いの財産を大切にしたいものです。出会いの中である先輩の言葉を思い出しました。

人との出会いの財産を大切にしたいものです。出会いの中である先輩の言葉を思い出しました。

〇高いつもりで 低いのが教養

〇低いつもりで 高いのが気位

〇深いつもりで 浅いのが知識

〇浅いつもりで 深いのが欲望

〇厚いつもりで 薄いのが人情

〇薄いつもりで 厚いのが面皮

〇強いつもりで 弱いのが根性

〇弱いつもりで 強いのが自我

〇多いつもりで 少ないのが苦勞

〇少ないつもりで 多いのが無駄

聞かせている私です。

ところで、出会いとは人を知り人に惚れる事ではないでしょうか。「人に惚れ、女房に惚れ?、仕事に惚れろ」惚れる事は大切な事です。「惚(ほ)

れないと惚(ぼ)ける」といつて同じ漢字です。但し自分に惚れないこと。「自惚れ」は

最悪で、因に惚けるは「惚(とぼ)ける」と同じ漢字です。

話が脇道に逸れましたが、法人会の会員の皆様方は長年

人の出会いを大切にし、信頼を培ってこられた方々であろうかと思えます。正に事業の安定と繁栄は人と人との繋り

であります。

今年「戌年」犬も歩けば...

いや、人も歩けば...と、新たな出会いの年の始まりです。この出会いという貴重な財産を大切に、会員の皆様のご事業が益々繁栄されることを心よりお祈り申し上げます。



「中・長期的な税制」に向けて

税務研究部会

10月研修会が27日(木)、法人会館にて会員25名が参加し開催された。研修テーマは「税制改正(人的控除・特別減税)の変遷」についてで、講師は大久保法人課税第1統括官である。要旨は以下の通り。



講師 大久保第1統括官

予算に占める税収の割合を見ると、平成2年度は86・6%なのに、平成16年度では50・7%・バブル崩壊で落ち込んだ税収を回復させようと、歳入では減税を続けたのに、歳出は社会保障費の著しい増加傾向があった為である。

減税の結果、租税負担率(所得に対する国税・地方税を合わせた総額の割合)は、主要国の2分の1の水準にある。著しく低下した財源調達能力を改めるには、続けられた人

的控除や特別減税の見直しが必要である。・歳出の無駄をカットするのは当然であるが、税を元の水準に戻す事も財政再建に必要である。

但し、これだけでは少子高齢化に充分に対応しきれない。スウェーデン・デンマークでは消費税は25%・負担が多くても老後を政府が見てくれるという信頼があるから成り立つのだろう。調査によると日本も、「現役・将来世代の負担が増えても社会保障の水準を維持・拡充すべきだ」とする意見が66%を占めるとい

う。・「どんな老後保障にするか、それにはどこまで負担するかが求められている。」

そして、その負担をどの税で行うのかも。日本の場合、直間比率は約6対4だが、外国には消費税等の間接税の比率の高い国も多い。「消費税を排除せず、候補のひとつと考

えてはどうか」と述べられた。

『ワインのあれこれ』

女性部会

去る12月8日(木)午後2時より法人会館に於て会員45名の参加のもと、山梨県ワイン酒造組合副会長西野晴夫氏を講師に迎え「ワインのあれこれ」と題し研修会が開催された。

ワインの渡来は奈良時代に



講師 西野晴夫氏

ワインの味は品種・産地・気候により異なる。赤ワインの澀(す)や余分のタンニン・色素を除くのに生の卵白が使われるとの説明は意外だった。

年間一人当たりのワイン飲量はフランス63ℓ、日本2・5ℓと差はあるが、生産量40%を占める山梨県では7・6ℓと3倍である。乾杯はワインで合言葉としている。

ワインの飲み方は大きなグラスに半分以下に注ぎ、静かに香りを嗅いでからワインを揺すり、様々に変化する香りを楽しむ。赤・白に拘わらず料理との調和を考え自由に飲めば良いとのことであった。

富士山と甲斐駒岳に囲まれた「登美の丘」に広がる葡萄園とワイナリーのビデオによる解説の後、おしゃやかな雰囲気の中、魅力の増したワインの試飲を会員一同満喫した。

さされたことが窺える。



▼今年は戌年、何回目かはさておいて、年女です。新しい年を迎える

と、今年こそ良い年であつてくれるよう祈ります。自分の干支である年の始めは殊更です。12年前もきつと良くなると思つたのですが、それ程でもありませんでした。

▼最近、何によらず、ルールを守らない、マナーが悪くなったと言われます。公の場所での大きなトラブルの原因になつていように思います。私自身は、クルマのお世話になつていきますので、滅多に電車は利用しないのですが、駅の周りの道路の汚れようにはがっかりします。

▼大昔の壁画にも「近頃の若い者は……」という文字があるそうです。若者にだけ文句をつけているのではありません。思いやりやおせっかいにあふれた古き良き下町の人情をいつまでも忘れずにいたいと、かつての下町娘は、年の始めに思うのです。(英)

功績を称えられ45氏が受彰

平成17年度納税表彰式

平成17年度の納税表彰式が、11月15日(火)カメラアプラザホールにおいて、江東東税務署と江東東税務親和会の共催により開催された。

今回は、江東東税務署長納

税表彰および感謝状の贈呈のほか、青色申告制度施行55周年江東東税務署長感謝状の贈呈も併せて行われた。表彰式は、受彰者をはじめ来賓多数が出席し、厳粛な雰囲気の中で江東東税務署の川口和典総務課長の総合同会により開式された。

税務署長表彰には、当会副会長の出店要蔵氏、理事の森沢健一氏はじめ4氏が、税務署長感謝状には、当会理事の儘田二郎氏、中嶋利雄氏、評議員の大川丈夫氏はじめ8氏

が受彰の栄に浴した。

続いての青色申告制度施行55周年記念税務署長感謝状の



署長表彰を受彰 出店要蔵氏

贈呈では、当会副会長の出店要蔵氏、中村宣夫氏、常任理事の永井祥道氏、宮崎文恵氏、相談役の三輪正雄氏、前専務理事の宮久保一氏はじめ14氏が受彰の栄に浴した。また、江東東税務署の恒吉良典副署長から、東京国税局長納税表彰受彰者並びに青色申告制度施行55周年記念東京国税局長感謝状受贈者として、当会前副会長の鈴木基之氏が披露された。



署長表彰を受彰 森沢健一氏

次に、江東東税務親和会の小川満雄事務局長の司会により、関係民間団体長の表彰状の贈呈が次のとおり行われた。



法人会長表彰を受彰された方々

- ▼江東東納税貯蓄組合連合会
 - ▼社団法人江東東青色申告会
 - ▼社団法人江東東法人会
 - ▼東京小売酒販組合城東支部
 - ▼江東東間税会
- 江東東法人会長表彰は、次の13氏に佐野一信会長から表彰状が贈呈された。
- 新井徳雄氏(亀戸第5前支部長)
 - 瀬尾君雄氏(亀戸西6支部副支部長)
 - 柳沼正次氏(亀戸第8支部幹事)
 - 川倉輝雄氏(大島第3支部幹事)
 - 稲垣紘幸氏(大島第5支部幹事)
 - 野田純氏(北砂第2支部副支部長)
 - 荻野房雄氏(東砂第1支部監

鈴木基之氏

東京国税局長表彰を受彰



鈴木基之氏

当会の相談役・鈴木基之氏(鈴木木管代表取締役社長)が、10月28日(金)に東京プリンスホテルにおいて、栄えある東京国税局長表彰を受彰されました。

鈴木氏は、昭和59年に常

任理事・組織委員長に就任され、永年に渡り会員の増強・加入率の向上にご尽力いただきました。平成11年には組織担当副会長に就任、組織の強化に多大な貢献をされており。また今回は、青色申告制度55周年・東京国税局長感謝状も併せて受贈されました。ここに披露申し上げ、深甚なる敬意を表します。

査 佐藤宗惟氏(南砂第1支部幹事) 山口章氏(新砂支部幹事) 高橋弘子氏(女性部会幹事) 木塚余志夫氏(青年部会幹事) 田中禎輔氏(税務研究部会幹事) 尾畑圭祐氏(源泉部会員)

次に、尾崎敏紀江東東税務署長、中沢正夫江東東税務親和会長より式辞が述べられ、来賓として兼森雅夫江東都税事務所長、室橋昭江東区長から祝辞が寄せられ、恒吉副署長が東京国税局長のお祝いの言葉を披露した。

引き続き、中学生・高校生の税についての作文の表彰状の贈呈が行われ、江東東税務署長賞には、高校の部で、浅野成美さん(東京都立江東商業1年)、中学生の部では清水有紗さん(江東区立第二砂町中3年)がそれぞれ受彰された。そして受賞者の清水有紗さんが書かれた作文「暮しと税金」を朗読し、閉式した。

『税務雑感―職場の40年を振り返って』

「税を考える週間」 尾崎署長 講演

平成17年度「税を考える週間」を記念し、11月11日(金)アンフエリシオンにおいて、講師に江東東税務署の尾崎敏紀



講 師
尾崎敏紀氏

署長をお招きし「税務雑感―職場の40年を振り返って」という演題で講演会を開催した。尾崎署長は、昭和41年に江川川税務署勤務を皮切りに、現在の江東東税務署勤務までの41年間の職場経験に基づいた教訓などについて講演された。

最初に赴任した江戸川税務署でのエピソードとして、徴収課で差し押さえの仕事をした時に、差し押さえ物件(テレビ、タンス等)に証紙(白色)を貼るのが嫌だったことや、あるお風呂屋さんの5

6万円の滞納金を10円玉、5円玉など細かい硬貨でいただいたため、数えるのにとっても苦労したこと。

また、木更津税務署の直税課の時は、ある企業が多額な賞与にかかる源泉所得税を一日遅れて納付したことで、何百万円という不納付加算税が発生し、その会社の社長さんから陳情があったが、法律どおり支払っていただいたこともあった。

これは、会社の経理担当者が、銀行に1枚の納付書を持つていかなかったことが原因でこのようになってしまった。仕事の基本は「ほうれんそう」(報告、連絡、相談)であるが、上司とその担当者が相互に確認をしていけば、このような事態にならずに済んだことで、「報・連・相」の重要性を学んだ。

法人税の調査で、ある建設会社のイラクの工事に係る調

査をしたところ、日本から持って行った機材等は錆びて砂漠に埋めなければならぬと、経理担当者から聞かされていた。

しかし、翌年にその会社のサウジアラビア工事を調査したところ、イラクで埋めた筈の機材等が使われており、調査は自分の目で確かめる必要があることも痛感した。

このほか、四谷税務署副署長時代の職員の健康管理に関する話や網走税務署長を経験されていることから、北海道の観光PRも含めた管内状況の話や、最後に江東東税務署長として、税務行政をとりまく環境の変化で、公務員の定員削減と反比例して改正消費税等税制改正により納税者が増大する事や、納税者サービスとしてのIT時代に即した電子申告納税制度(e-Tax)の活用についての協力要請を述べられ講演を終了した。

「税を考える週間」 研修会

青年部会

10月20日(水)法人会会館2階にて青年部会研修会が開催された。第1部には野村審理担当 席調査官を講師に迎え、「ゴルフ会員権等をめぐる税の取り扱いについて」をテーマに研修を行った。

野村講師からは、「個人で相続又は贈与を受けた場合は通常取引価格の70%の評価で課税される。又、会員権の譲渡による損失は総合課税の譲渡所得となる。これは税法上他の所得と合算出来ない【動産】【不動産】と違う為であり、網の目より洩れているかもしれない」との説明があった。



講 師
西沢邦浩氏

第2部は「これだけであなたの寿命は10年延びる」と題し、日経ヘルス編集長の西沢邦浩氏が、「健康には朝食に気

を使い、又、肥満の予防をしていただきたい。体の中で一番大切なのは【脳】ではなく【腸】である。何故ならば免疫の80%は腸が作っている。

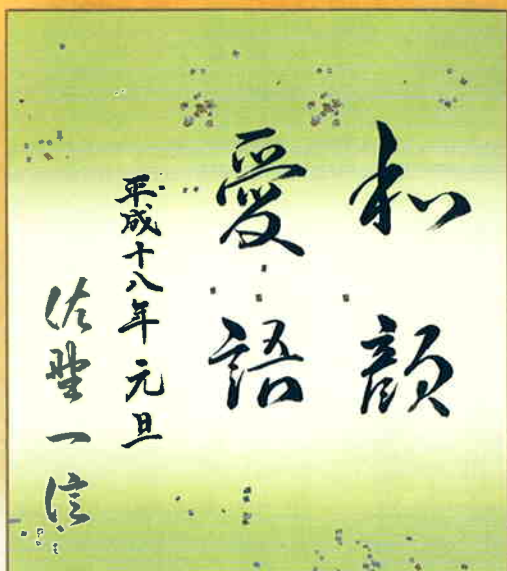
乳酸菌は日本が初めに発見した良菌だ、二大健康食とは地中海沿岸食と和食である。肉食でなく魚介類、野菜を多く摂るイタリヤ人はトマトを日本人の50倍食べる。食事は【腹六分目】。食後は軽い運動と風呂に入るのが理想。笑いは血糖値を下げ糖尿病の改善となるが、ストレスは体温が下がり免疫活性が落ちる。下痢は腸内菌を出しているの

で薬で止めないこと。調子が悪い時は断食をして腸を休め、その後はおかゆから慣らす。お腹が減るとグーとなるのは食べてよいという腸からの信号である」などの講話され、受講者一同、日頃の健康管理について考えさせられる研修となった。

賀 心

なごやかな顔と愛情のこもった語らいと...。
一年を通して心掛けていきたいこと。

(社)江東東法人会長 佐野 一信



平成十八年が会員の皆様にとって
より良い年でありますように……



魅力ある法人会を！会員の皆様のご事業のご繁栄を
心からお祈り申し上げます。
江東東税務署長 尾崎 敏紀



